

Umbrella仮想アプライアンスでのキャッシュされたADユーザの維持

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[概要](#)

[Admapツール](#)

はじめに

このドキュメントでは、Umbrella仮想アプライアンス(VA)とのAD統合でキャッシュされたActive Directory(AD)ユーザを維持または削除する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Umbrella仮想アプライアンスに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

概要

仮想アプライアンスは、一意の送信元IPアドレスに対してADユーザとコンピュータ名をキャッシュします。まれに、IPアドレスに対してキャッシュされるAD情報を確認または削除する必要がある場合があります。

これは、ユーザが誤ってIPアドレスに関連付けられ、即座に期限切れにしたい場合に適用できません。



注：通常のシナリオでは、ユーザをキャッシュから手動で期限切れにする必要はありません。新しいユーザーがログオンすると、既存のユーザーが上書きされます。

これらの手順が必要になるのは、以前の設定ミスが原因でキャッシュが正しくない場合だけです。ADサービスアカウントまたはサーバIPの[例外](#)を作成する手順も参照してください。

Admapツール

キャッシュのチェックとクリアには、制限付きのシェルツールを使用できます。制限付きシェルは、アプライアンスのコンソールでCtrl+Bを押すことで利用できます。

次のコマンドを使用してキャッシュを管理できます。<IPAddress>は、該当するクライアントIPに置き換えられます。

```
config admap view <IPAddress>
config admap clear <IPAddress>
```

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。